

【事業実績】

【活動1】共創協学で作る箱崎アーカイブ

■概要

ねらい：誰でも利用できるデジタルアーカイブ（DA）の構築
まちの文化資源を収蔵する DA を公民館や地域団体と共に、
現状を把握しつつ、相互に DA の形を提案検討しながらウェブサイトを構築しました。

■アウトプット

- ・箱崎で活動する団体より資料のデジタルアーカイブ化。資料の画像やメタデータの生成とともに、収蔵元にヒアリングしオーラルヒストリーの収集も行った。
 - ▶ 箱崎探索収集研究会、箱崎九大記憶保存会：190 点
 - ▶ 箱崎公民館：資料所蔵状況の現地調査とヒアリング実施
- ・オンライン上のまち（箱崎）の個人や団体などが発信する情報を取りまとめリスト化 ▶ 92 件を収集
- ・ウェブサイト：DA のデータをアップロード。本事業に関する記事を公開 ▶ まちの文化資源のデータベース：50 件。資料写真、分類・年代等のメタデータを付与
- ・リアル催事連携 ▶ 3 件のイベントにて主催団体などと連携し DA の紹介などを行った

■アウトカム（アンケート、参加者のリアクションなど）

- ・リアル催事連携では、一般市民のデジタルアーカイブへの興味関心を喚起し、参画に繋がった
 - ▶ 本事業の活動への参加新規登録：12 人（「まちの学芸員」登録）、プロジェクトへの写真など資料提供者 27 名。資料収集のみならず DA の公開への期待が来場者の言葉から聞かれた。
 - ▶ アンケートから：「たまたま通りかかった」参加者が DA への印象を「知らない・聞いたことがなかった」から「必要だと感じる」に変わるケースもあった。
- ・学生がアーカイブ作成に参加。データベース作成・活用についての知見を得て作り手にも使いやすい DB 構築の改善の検討に繋がった。



箱崎探索収集研究会



箱崎九大記憶保存会



箱崎公民館



アーカイブ作業



ウェブサイト（トップページ、DB、記事）



リアル催事連携



リアル催事連携

【活動2】バーチャル 3D エキシビジョン

■概要

ねらい：市民もキュレーターとなって展示を作り発信する
オンライン上の仮想の展示室でのデジタル化した資料による
展示作成を一般市民にも可能に整備し DA 活用の可能性を検討する。

■アウトプット

- ・既存のオンライン仮想空間 3D 展示システムを、開発事業者と共同し拡張開発を行う
 - ▶ 専用の PC が必要な状態から、ウェブブラウザで使えるように拡張、一般市民でも取り扱いやすいシステムによって展



ワークショップ



オンライン上の展示室



元になった資料



3D 化した資料

示制作にチャレンジできるようになった

- ・本館収蔵資料の3Dデータを作成
 - ▶ 植物標本11点を3Dデータ化
- ・システムを試験的に使うワークショップを通しフィードバックを得る ▶ 参加者：5名

■アウトカム（アンケート、参加者のリアクションなど）

- ・Webブラウザを通しての操作は一般の参加者でも少しの練習で操作できるようになることが検証された。
- ・参加者の声から、自身が住む地域の資料で展示を作りたいニーズがある

【活動3】コミュニティマネジメント・普及

■概要

ねらい：DAの利活用をともなったコミュニティの形成
DAのニーズや実践について、地域など博物館周辺と異なるコミュニティへ伝え新たなDA活用の形を検討する。

■アウトプット

- ・「まちの学芸員」活動で一般市民向けにデジタルアーカイブを紹介し、興味関心を醸成。
 - ▶ イベント1件、展示1件を実施。活動の紹介やデジタル音声コンテンツ「博物館ラジオ」を流す。
- ・オンラインシンポジウム「かたりば」を開催し公民館との地域の文化資源の利活用の可能性の検討。
 - ▶ 2回実施。第1回は地域コミュニティの実践としての公民館活動について、第2回は博物館のDX・DA、地域との連携について、意見交換。
- ・デジタルアーカイブ作成支援テキストを作成
 - ▶ これからデジタルアーカイブ作成に取り組む初心者向けの基礎的な内容
- ・ヒアリングを行いまちに関わる様々な主体へのデジタルアーカイブへのニーズなどを調査 ▶ 事業内で関わるまちの主体へのヒアリングを13団体に対して行った

■アウトカム（アンケート、参加者のリアクションなど）

- ・「まちの学芸員」活動に興味を持った来場者が新たに12名登録
- ・オンラインシンポジウム
 - ▶ 参加者：全2回でのべ70名参加 博物館関係20人／公民館関係35人（その他：大学関係、学生など）
 - ▶ アンケートコメント：「博物館と公民館、連携の大切さは分かっているけど、認識にずれがあることが、意見交換で現れたように思いました。今回のような会を行ってみたいと分からないものなので、このような語り合う機会があったのはよかったなと思いました」
- ・DA作成支援テキストのモニター
 - ▶ 参加者：資料整理などの実習を行う学生らへ試験的に内容を閲覧、実習に活用可能であることや、実作業がわかりやすく説明されている、との感想をえる。
- ・各種団体へのヒアリングから
 - ▶ 地域団体への啓蒙につながり、代表的なアーカイブの主体である地域の図書館と地域団体のコラボレーションを含む事業が実現した。
 - ▶ オンラインシンポジウムのテーマ設計に取り入れ、オンライン会場上での博物館-公民館の意見交換に繋がった。



イベント実施



展示制作



オンラインシンポジウム



テキスト